

防災対応事例紹介と見学会 富士ゼロックス竹松事業所

6月21日に、富士ゼロックス社竹松事業所の全面的な協力をいただき、防災対応事例の紹介と見学会を実施した。同事業所は、南足柄市開成町に1971年に設立されているが、この地域は、東海地震が発生した場合は震度6弱程度、神奈川県西部地震(平均周期73年)が発生した場合は震度6弱～6強の激しい揺れが予想されており、古くから地震対策に熱心に取り組まれている。また、新型インフルエンザを含む事業継続計画でも先進的な取り組みがなされている。

事業所概要

敷地面積約12.5万平方米、床面積約10万平方米、従業員数約600名、派遣・協力会社を含め約1,300名で、コピー機・プリンターのトナーや消耗品の開発と製造を実施。

耐震対策

トナーや消耗品の製造工場の建屋は、積層ゴムと鉛ダンパーによる浮揚式免震構造。全館の窓ガラスは割れて落下しないように、全て網入りガラスへ変更。変電機とボイラーを耐震タイプへ変更。製造設備の固定。トナー製造設備は225Galで自動停止。蒸気配管の37ヶ所に伸縮継ぎ手を設置し破損を防止。水道埋設管に11ヶ所の仕切り弁を設置し水漏れに対応。転倒対策は $4 > D/H$ (H:高さ、D:奥行き)を超えるものは全て固定。

災害対策本部の立ち上げ基準

震度3と震度4までは受けた被害報告により判断。震度5弱以上で自動的に保安要員を招集し、災害対策本部を設置する。休日・夜間も10分以内に出社出来る従業員で保安要員を組織している。

安否確認システム

パソコン、携帯のメールから自動的に安否情報を取り込むシステムを導入済み。西日本の情報は東日本のサーバーに、東日本の情報は西日本のサーバーに集め管理する。



帰宅困難者

3回のアンケート調査から、帰宅困難者を約200人と推定し、宿泊と食糧3日分を準備。帰宅者には、食料と水の入ったリュックとヘルメットを支給。

食料と水の備蓄

食料は、常に食堂に米100Kgを備蓄し、売店の食料を使用することで契約企業と協定を結んでいる。水は地下水があり、非常用発電機(80KW)と非常用浄水器を設置済み。

非常用設備と備蓄品

非常用発電機10基、簡易トイレ10基、リヤカー3台、バイク1台、ブルーシート50枚、タオル200枚、バケツ50個など。なお、非常用発電機を運転する事態に至った場合には、軽油1,200リットルとガソリン100リットルをすぐに届ける協定を近くのガソリンスタンドと締結済み。

事業継続計画

有事の際にもお客様に迷惑がかからないよう、コピー機やプリンターの消耗品類は1ヶ月分の在庫を分散して保有している。また、会社として、火災が発生した場合にも、1ヶ月以内に復旧できるように計画を組んでいる。

以上のような事例紹介のあと、免震ビル、備蓄倉庫、非常用浄水器などを見学した。周到な受け入れ準備と丁寧な説明に参加者は大変感謝した。

(文責 事務局)